

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2008年10月3日

【評価実施概要】

事業所番号	"0175300326
法人名	有限会社 ケアサポート ほっこう
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	斜里郡小清水町字共和13番地7 (電話) 0152-63-3577

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(20年8月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16人, 非常勤 4人, 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火構造造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費15,000円(11月~4月暖房費3,000円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	420 円	昼食	420 円
	夕食	525 円	おやつ	30 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 22 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小清水赤十字病院 ・ エノモト歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれ、広い敷地を有し、近くには、在宅支援センター、デイサービス、高齢者住宅があり福祉エリア地区になっています。ホームは平屋建て2ユニットになっており、渡り廊下で繋がった1号館、2号館はそれぞれ異なったデザインのモダンな造りとなっています。陽だまりの名のごく窓が大きく明るい居間からの眺めは、山々の木々が見られ季節を肌で感じる事ができます。敷地内には、ビニールハウス、畑、羊や山羊の飼育小屋があり地域の人々や保育園児が訪れ、利用者とのふれ合いの場となっています。理念に「利用者を個人として尊重し、自分らしく自由に主体的な決定を行えるよう支援し、安心と喜びのある暮らしを提供することを約束いたします」と掲げ管理者、職員は常に自らの介護が利用者に沿っているかを振り返りながら、日々のケアに当たっています。又、近くには赤十字病院があり、利用者、家族の安心感に繋がっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点にあげられた、地域とのつき合い、職員を育てる取り組み、事業所の多機能性を活かした取り組み、災害対策に付いては、管理者、職員が話し合い改善して行こうとの努力がされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について管理者が職員に説明し、昼の時間帯を利用した会議で取り上げ全員に周知を図っています。職員全員の思いを汲み取る為にノートを回し管理者がまとめ作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成20年7月に第一回目が開催され、参加者は、利用者家族、自治会長、民生児童委員、社会福祉協議会、町の保健福祉課、警察駐在所長、と幅広く、その中で、ホームの紹介、活動内容が話し合われています。特に、駐在所長の出席は、利用者、家族、職員にとって心強く、回を重ね地域の中で支え合い連携を図りながら更なる質の向上に繋がるよう考慮しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置はありませんが、職員は家族の訪問時に積極的に声をかけ、何でも言って貰える関係を築き日々のケアに活かすように努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の保育園児との交流や小清水高校の見学実習の受け入れ等事業所の特性を活かし取り組んでいます。又、地域の祭りに出掛けたり、敷地内で地域の方々の協力を得て盆踊りを行う等交流に努めています。今後、運営委員会を通じて更に地域と連携を深めて行くことが課題となっています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が自分らしく自由に地域の中で暮らすことが出来る様に、利用者を尊重した独自の理念を作成しています。管理者の名刺の裏には、理念が印刷されており、多くの人にホームの理念が理解される様に工夫がされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を大切に、利用者が主体的に生活出来るケアを心掛け、常に理念の基本に戻る意味で、会議時に於いて話し合い周知されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していませんが、近くの保育園児との交流や地域のお祭りの参加、又、地域の方々の協力で盆踊りを行う等交流がされています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、会議時に話し合い、自己評価については職員それぞれがノートに自分の思いを書く等工夫して取り組んでいます。外部評価についても、誰もが出来る様に玄関に置いて周知されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、自治会長、民生児童委員、社会福祉協議会会長、町の保健福祉課、警察駐在所長と幅広く声を掛け、平成20年7月に開催し、ホームの説明、活動報告等が話し合われています。	○	今後、定期的開催を目指し、地域の認知症の理解へと繋げ交流する中で、災害時等様々な面で地域の協力を得る体制を整え、日々のケアに活かしていく事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や事務担当者は、その都度行政に出向き相談や情報収集等に努め取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族に手紙や写真を送付して状況を報告しています。家族の訪問時にはその時々の様子や健康状態を伝え、電話での報告もされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はありませんが、管理者、職員は何でも言って貰える関係を心掛け、家族の訪問時に話を聞いたり、ケアプラン作成時にも不満、意見を聞く等取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職があった場合は、管理者が利用者の不安に対応しています。新規採用された職員は利用者との会話を多くもつように教育がされ、一人ひとりの性格や対応の把握に努め利用者のダメージを防ぐ配慮がされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者には2週間の研修期間が設けられ、2人体制で育成に努めています。グループホーム網走ブロックにて行われる研修会にも参加し、参加した職員による内部研修も行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との研修、交流の機会を持ち積極的に関わりを持っていますが、職員の交流は少ない様に見受けられます。	○	他のグループホーム職員とのネットワーク作りを研修会等の機会に行い、更なるサービスの質の向上に取り組む事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人に見学をして貰い安心して生活出来る様に、職員や他の利用者に関わる時間を多く取り、家族と相談しながら馴染める様に取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす中で、料理の作り方や野菜の植える時期等利用者が培ってきた知恵を学び、支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉を記録したり、家族との会話の中から希望や意向を聞き、自分らしく生活出来るように支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度ケース会議を設け、利用者、家族の意向を尊重し、日々支援する中での気づきやケアのあり方に付いて反映させながら、利用者本位の計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、ケアマネージャー、職員が話し合い見直しが行われています。ケース記録に利用者それぞれの目標、サービス内容が細かく書かれており、ケアに当たる職員の意思統一にもなっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、送迎、その他利用者の馴染みの理・美容室等、要望に応じて柔軟な支援をしています。小清水高校の実習生の受け入れもされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し取り組んでいます。協力医による往診や週に一度の訪問看護師による健康チェック、24時間連絡可能な体制も整えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、家族や医師、職員と連携を取り、情報の共有に努めています。	○	今後、更に勉強会等の充実と事業所としての指針を明確にし、運営者、管理者、職員、家族で共有する事を望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者の尊厳を大切に言葉掛けを心掛け、都度会議に於いて話し合いがされています。プライバシーに関わるケアについては同性職員が対応する等配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者、職員は利用者とは日々話をする中で一人ひとりの思いを汲み取り、畑について教えてもらったり、共に季節の飾り付けをしたりと、利用者の希望に沿った支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや配膳、食前の挨拶、後片付け等と利用者の力を活かしながら食事を楽しんでいます。月に1度、選択メニューもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広くゆったりとしています。入浴日は決まっていますが希望により他の曜日でも入浴、シャワー浴等楽しめる様支援しています。時には、利用者同士で入浴を楽しむ事もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しや洗濯物たたみ、朝の体操、掃除、新聞を読んだりと力を活かして、一人ひとりの暮らしに合わせ支援しています。温泉一泊旅行やお祭りに出掛けることもあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩には頻繁に出掛ける様に心掛けています。時には買い物やドライブ等利用者の希望に沿った支援をしています。冬期間も天候を見計らいながら外出する様に心掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけないケアを実践しています。玄関のドアには鈴を付けて利用者の安全確保に努めています。一人で外出する利用者には職員の見守り、声かけによる配慮がされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災非難訓練が実施されています。災害にそなえ、避難の方法を日頃職員同士で話し合い確認されています。救命救急の講習会も実施されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度栄養士、職員による給食会議が開催され、利用者の状態や嗜好に応じた栄養バランスの良い献立が作成されています。水分・食事摂取量も記録がなされ利用者に声かけしながら水分、食事量の確保に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく広々とした居間からは季節毎に変わる山々や草木の風景を眺めることができ、ゆったりくつろげるソファで新聞を読んだり昼寝をしたり、廊下にある椅子に腰掛けたりと居心地良く過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には馴染みの家具やラジオ、時計、家族の写真が置かれその人らしく過ごせる様に配慮されています。時には家族と相談して一緒に買い物に行くこともあります。		